ちょっと寄り道

ゆかりの埋蔵文化財

平安時代から鎌倉時代にかけてこの地を舞台に活躍し、全国へと羽ばたいた甲斐源氏の一族。
市内では古代～中世の遺跡も多数調査され、それらは一族の活躍を彷彿させます。

①秋山太郎光朝供養の経筒及び付属品

県指定文化財　伝　秋山経塚出土

秋山光朝館跡とみられる熊野神社付近で、江戸時代に発見されたものと伝わる。光朝の悲運の最期をうけ、その弟光経（経光ともいう）が一族の安寧を祈って埋納したものとみられる。

出土したのは建久8年（1197）銘の鋳銅製経筒2点、銅板製外筒1点、和鏡1点、刀身3点、常滑産の陶製甕の計8点

②雁又鏃

弓矢の鏃は目的によりその形が違い、雁又鏃は二股のやじりで武芸で用いられる弓矢である。

中世武士団の特徴を示す資料といえ、市内ではこれまで5点出土されている。まさに武士の活動を裏付ける出土資料といえる。

左：寺部村則第6遺跡（寺原）、右：一の出し遺跡（小笠原）

コラム Column

加賀美から始まる礼法の歩み

小笠原といえば、小笠原流礼法・・・小笠原流流鏑馬・・・小笠原諸島・・・などなど、日本中の人々が思いつくことでしょう。

実は、これらはみな南アルプス市小笠原と関係があります。また、南アルプス市加賀美、秋山、小笠原、この3箇所の地域もまたそれぞれ深い関わりがあるのです。

平安時代末、貴族の社会は終りを迎え、源氏と平家の武家の2大勢力の時代を経て、源氏による鎌倉幕府の時代が幕を開きます。

関東武士団の中で最も実力者たちが集まっているのが甲斐の国の源氏一族―「甲斐源氏」―と言われ、またその中で最も成功し、後の世に名を残す一族がここ南アルプス市を舞台に活躍していたのです。

加賀美を本拠地とした加賀美遠光を父親とし、長男光朝は秋山を本拠地としたので秋山光朝、次男長清は小笠原を本拠地としたので小笠原長清と名乗ります。

二人とも甲斐源氏の中でトップクラスの出世頭でしたが、光朝は平家怨霊の嫉妬の最期を迎えます。父遠光は弓術の名手で、魔弦の術で天皇家を悪霊から救ったという逸話を残しています。次男長清もまた父の技術を受け継いで弓馬術に秀で、源頼朝の信頼を得て流鏑馬の作法を制定します。室町時代以降も子孫たちは代々将軍家の師範や大名となり、その伝統はやがて小笠原流礼法・小笠原流流鏑馬として現在でも全国に知られることとなるのです。

平成23年度史跡等及び埋蔵文化財公開活用補助事業
南アルプス市教育委員会　文化財課
☎055-282-7269

③新居道下遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

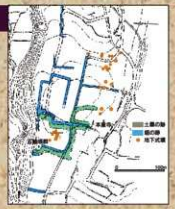
竪穴住居址調査風景（古墳時代後期）

腰帯具（平安時代　石製のベルト飾り）

古墳時代後期のムラの跡が発見された。また弥生時代～古墳時代前期の溝跡なども発見されており、弥生時代以降、連綿と人々が暮らしていたことがわかる。

古墳時代後期の土器（出土状況）

④椿城跡（農地整備）



また名を上野城とも呼ばれる。農道整備時の発掘調査により中世の溝跡が発見された。また、地中レーダー探査により溝や土壇で区切られたいくつもの空間や、多数の地下式坑が築かれていたことが分かった。地下式坑は時折陥没したため、古くより地域では地下道があると語り継がれている。

⑤油田遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

平成5・6年に発掘調査を実施。

弥生時代中期の地震の痕跡や古墳時代後期の祭祀跡、平安時代の水田跡など、弥生時代から連綿と生活が営まれていたことがわかる。

⑥宮沢中村遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

平成6・7年に発掘調査を実施。

鎌倉時代の水田を守るために築かれた護岸用の網代が発見された。洪水の土砂で埋まりながらもそのつど復旧し、水田やムラを守り続けてきた人々の営しさを知ることができる。

●百々・上八田遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

平安時代から中世の集落跡。調査では80個体を超えるウマ・ウシの骨が出土し、「八田牧」の存在を彷彿させ、ウマの存在が甲斐源氏活躍の素地を物語っている。

四体のウマの骨

●中野城（「歴史に触れる散歩道」として整備）

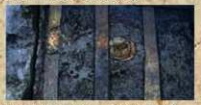
散歩道の入り口にある説明板

⑦二本柳遺跡（現甲西バイパス・中部横断道、現農道）

中世の水田跡とともに溝によって区画された戦国時代の寺院跡が発見された。加賀美遠光の館跡とされる法善寺の塔頭「福寿院」の跡で、16世紀を中心とした木棺墓などが発見されている。

水田調査風景　昔の人々の足跡もそのままの状態で見つかった

木棺（戦国時代　左上・左下とも）
木棺墓の板や蓋将木棺には梵字や真言密教の偈文（げぶみ）が墨書され、中世の入棺作法に のっとった葬送儀礼を知るよで、全国的にも貴重なものといえる。



兜の飾り金具（戦国時代）
兜の前立てとみられる飾り金具で、武田信玄所有の鎧と伝わる長野県長谷寺に伝わる前立てと良く似ている。

木棺（戦国時代）
2枚重ねの土器の上に細敷のせられ、八瀬鏡、菩提樹の実を用いて作られた数珠、灰（火葬骨）が入れられていた。

⑧大師東丹保遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

くい列は皆西側へと倒された状態で出土し、釜無川の氾濫による洪水の威力が伝わる

漆塗りの椀
通常残りにくい木製品が大量に発見された。

平成5・6年に発掘調査が実施され、大量の木製品が発見された鎌倉時代のムラ跡。

今から約700年前の建物や水路、その周辺に広がる水田など当時のムラの様子がうかがえるとても貴重な調査資料である。

県指定文化財　網代
結巻物に よく描かれている建物の壁材。

●野牛島・西ノ久保遺跡（御勅使南工業団地）

平安時代後期の住居跡からは雁又鏃が発見された。また炭焼窯や、平安時代末期の櫟で囲んだ墓坑からは和鏡が発見され、生産道構や特殊な身分を示す遺物が特徴といえる。

和鏡

●雨鳴城（未整備）

山道の途中にある天満宮

遺跡で散歩

vol.3 ver3
MINAMI-ALPS CITY

Mなび

vol.3

甲斐源氏（かいげんじ）

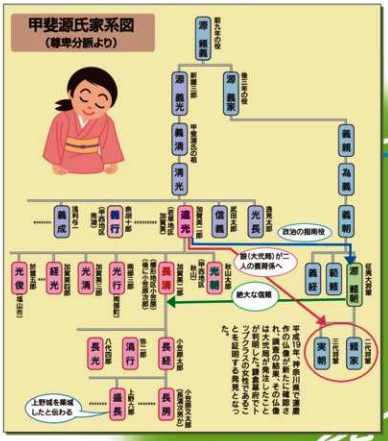
●遠光●光朝●長清 活躍の舞台
ゆかりの史跡を歩く

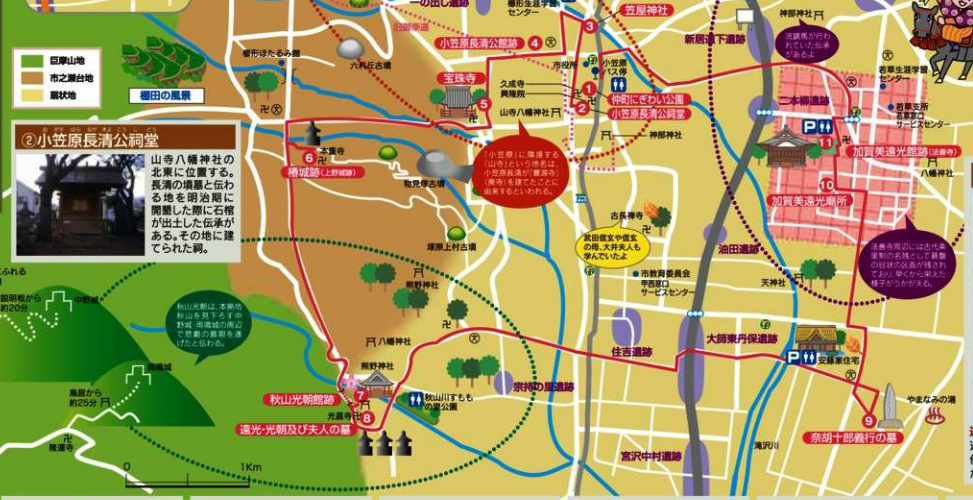
●コースあんない　小笠原長清公祠堂～小笠原バス停・仲町にぎわい公園　距離16km／移動時間：約3時間（車で約1時間）

①仲町にぎわい公園 → 徒歩5分 0.3km → ②小笠原長清公祠堂 → 徒歩10分 0.8km → ③笠屋神社 → 徒歩4分 0.3km → ④小笠原長清公館跡（小笠原小学校） → 徒歩10分 0.7km → ⑤宝珠寺 → 徒歩7分 0.6km → ⑥椿城跡（上野城跡） → 徒歩36分／車4分 3.1km → ⑦秋山光朝館跡 → 徒歩3分 0.3km → ⑧遠光・光朝及び夫人の墓 → 徒歩60分／車11分 4.9km → ⑨奈胡十郎義行の墓 → 徒歩24分／車4分 2.0km → ⑩加賀美遠光廟所 → 徒歩2分 0.2km → ⑪加賀美遠光館跡 → 徒歩35分／車6分 2.8km → ①仲町にぎわい公園

小笠原流礼法って相手を思いやる心を形に表したものなんだよ

甲斐源氏家系図
（尊卑分脈より）





②小笠原長清公祠堂

山寺八幡神社の北東に位置する。長清の墳墓と伝わる地を明治期に開墾した際に石棺が出土した伝承がある。その地に建てられた祠。

③笠屋神社

「的場」という地名の地に建つ神社で、延喜式内社の推定社のひとつ。長清公館跡にあったと伝わる「天神社」も境内に移築されている。

④小笠原長清公館跡（小笠原小学校敷内）

市指定史跡

小学校周辺は「御所館」や「的場」という地名が残っており、長清公の館跡と伝えられている。校舎の壁には鎌倉武士の笠懸のレリーフが描かれている。

加賀美遠光・小笠原長清

遠光・長清父子坐像画（開善寺蔵）
遠光（上）、長清（下）父子は弓馬術に優れ、その作法が一子相伝で受け継がれたのが小笠原流礼法となる。

⑤宝　珠　寺

国指定重要文化財　木造大日如来及四波羅蜜菩薩坐像

遠光・長清により復興した古刹で、平安末期の貴重な木造物が残る。通常非公開。拝観は要相談。

⑥椿城跡（上野城跡）

市指定史跡

長清の孫上野盛長の築城といわれ、後に大井氏が入城したと伝わる。本丸跡に五輪塔群がある。

⑦秋山光朝館跡

市指定史跡　熊野神社

周辺には光朝ゆかりの光昌寺や光朝廟がある。また、熊野神社境内から経筒が出土したと伝わる。

⑧遠光・光朝及び夫人の墓

市指定史跡

秋山光朝廟の散地内にあり、中央の五輪塔が最も古く鎌倉時代初期、遠光のものと伝わり、向かって左側が光朝と伝わる。

⑨奈古十郎義行の墓

市指定史跡

奈古十郎義行は加賀美遠光の弟にあたり八条院童人として知られる。墓は地元で「十郎木（樹）」と呼ばれている地に建てられている。

⑩加賀美遠光廟所

法善寺の門の正面を南に歩くと門と対面するように祀られており、今も8月にはお祭りが行われる。

⑪加賀美遠光館跡

市指定史跡　法善寺

遠光の孫により館の跡地に法善寺が移されたといわれ、堀や土盛がその面影を伝える。

流　鏑　馬

アヤメフェアの一環として披露される。小笠原長清は鎌倉時代弓馬の四天王に数えられ、頼朝の元で流鏑馬の作法を制定した一人。